

# 全国協議会 ニュース

2017年2月1日発行 第296号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和 (会長)  
http://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

## さい帯血バンク移植数が 骨髄バンク移植数を上回る！

2016年の年間移植数は、骨髄バンク移植数は1228例(骨髄細胞1113例、末梢血幹細胞115例)、さい帯血バンク移植数は1327例でした。年間ですさい帯血移植が骨髄バンクの移植数を上回るのは初めてです。

骨髄バンク年間移植数は、2013年の1360例をピークに毎年減少が続き、3年前に比較して132例減少し、さい帯血移植数は168例増加しています。(移植数の推移・図表1)

その背景について血液専門医の方々にお聞きました。

★日本における造血細胞移植では、疾患別・ステージ別にみる必要があるが、移植ソース別(骨髄・末梢血幹細胞、さい帯血)での移植成績(長期生存率)に違いがない。移植成績では、移植時期が重要であり、患者さんの病状に合わせて移植のタイミングを逃さないよう、移植ソースの選択を適切に行う必要がある。さい帯血移植での課題であった生着不全対策が向上しており、増加を後押ししている。

★骨髄バンクの骨髄移植では、患者登録から移植までに約5カ月(中央値147日)のコーディネート時間がかかっており、この10年間まったく短縮化されていない。白血病では病状からして、100日以上も良い状態を維持するのは困難な患者さんも多い。そのため、さい帯血移植や血縁ミスマッチ(ハプロ)移植に切り替える例も増加傾向にある。(登録患

者の取消理由別件数・図表2)なお、末梢血幹細胞移植は、規制緩和で前年53例から倍増して年間100例を超え、コーディネート期間も骨髄移植より約2週間短縮されている。

★コーディネート期間短縮化は、血液専門医みんなの願いであり、何よりも患者さんの命にかかわる問題と認識。厚生労働省も学会も一致して取り組む姿勢を示しており、骨髄バンク関係者の全力での努力を期待している。骨髄バンクでの移植件数は、末梢血幹細胞移植の増加が見込まれるため、骨髄移植は横ばいか減少傾向が続くと見込まれる。コーディネート期間が中央値で100日を切る状態になれば、移植件数も増加に転ずると思われる。

移植数の推移 (図表1)

年別	骨髄バンク移植数	さい帯血移植数	移植数合計
2013年	1360	1159	2519
2014年	1332	1177	2509
2015年	1268	1266	2534
2016年	1228	1327	2555

(出典：日本赤十字社「造血幹細胞移植情報サービス」)

登録患者の取消理由別件数 (図表2)

取消理由	2010年	2015年
死亡	339	295
病状悪化	44	75
さい帯血移植	120	249
血縁・自家移植	43	113
病状良好・他	83	140
合計	629	872

※2010年に患者登録し、翌年2011年12月末日までに登録を取消した「理由別人数」です。  
※2015年に患者登録した方も同様です。  
(出典：日本骨髄バンク)

## 来年度政府予算案

平成29年度政府予算案で、厚生労働省「造血幹細胞移植対策費」として、22億7000万円が計上されました。

その概要を紹介します。特筆すべきは、日本骨髄バンクに対し、コーディネート期間短縮化のためとして、6100万円が増額計上されたことです。

- ①骨髄バンク運営費補助金4億5600万円。
- ②さい帯血バンク運営費補助金5億8200万円。
- ③日本赤十字社・骨髄データバンク登録費(ドナー登録・HLA検査費用)5億9700万円。
- ④日本赤十字社・支援機関業務経費2700万円。
- ⑤日本赤十字社・システム一元化経費2億9300万円。
- ⑥造血幹細胞移植拠点病院体制整備費2億4200万円。
- ⑦学会データセンター「患者・ドナー情報登録」支援事業費6500万円。

その他、厚生労働科学研究として「移植医療研究費」1億2000万円を計上。



骨髄バンクの最新情報をお知らせする

## 骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(1月15日発行)より抜粋)

### ■日本骨髄バンクの現状(2016年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,851	2,464	468,728	688,881
患者登録者数	263	229	3,499	49,871
移植例数	103	81	—	20,237

### ■12月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/708人、献血併行型集団登録会/1,683人、集団登録会/22人、その他/51人

### ■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,396人/20代 70,418人/30代 140,243人  
40代 200,823人/50代 53,848人

### ■12月の20歳未満の登録者300人

### ■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：255件

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

白血病フリーダイヤル  
0120-81-5929

毎週土曜日10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みの相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

# 箱根駅伝 患者さんへのエール! お正月「骨髓バンク」ノボリがはためく

「第93回東京箱根間往復大学駅伝競走」が1月2日(日)・3日(月)に開催され、テレビで選手の活躍をご覧いただいた方には、沿道に「骨髓バンク」のノボリをみつけていただけたかと思います。お正月も闘病されている血液疾患の患者さん・ご家族へテレビ画面をとおしてエールを、「骨髓バンク」ってなに?と興味を持っていただけるよう、プルデンシャル生命の皆さまはじめ骨髓バンクのボランティア延べ約400人が応援にかけつけました。

プルデンシャル生命様には、今回で12回ものご協力をいただいております。この活動は例年どおり関東学生陸上競技連盟のご理解と、箱根・宮ノ下商店街の箱根駅伝応援実行委員会の皆さん、読売センター小田原中央の皆さん、鈴廣蒲鉾株式会社様、箱根恵明学園様のご助力・ご協力に支えられています。応援および募金・PR活動にご協力いただいたすべての皆さまに深く感謝申し上げますながら、当日の各地の雰囲気をお伝えします。



田町/復路、駅伝終盤の猛烈なデットヒート



宮ノ下/往路、街頭啓発と募金の呼びかけ



御成門/往路、朝早くからプルデンシャル生命の皆さんが準備作業

**東京/田町** 今年の箱根駅伝、患者さんへ思いが届けの応援は、天気も良く寒くなく、ボランティアにとってはありがたい2日間でした。恒例となる田町駅近く、国道1号線と日比谷通りの交差点沿道で、真っ赤な「いのちのたすきリレー・骨髓バンクを応援します」のノボリを持って、駅伝選手を応援するとともにテレビ中継を見ている患者さんへの応援にも力を込めます。

東京・埼玉・千葉のボランティア26名が、行き交う人達に全国協議会のチラシとティッシュも300セット手渡ししました。往路は8時スタートの15分後、選手がひとかたまりになって一瞬で通り過ぎていきました。早いのなの!復路は青山学院大学がトップで通過し次々と後続が続ぎ、最後は国士舘大学が走り抜けました。その間30分余り。ノボリと旗を振って、声の限りに応援しました。終了後はボランティア仲間の新年会で、また今年も

盛り上がりました!(理事 若木 換)

**横浜/戸塚** 移植をして年が明けた7年前の1月2日、TV中継で骨髓バンクのノボリを観て「私も来年は絶対にお手伝いができるように元気になる!」と思ってからもう6回目の参加となった今年の箱根駅伝。

今年もいいお天気に恵まれ戸塚の青空に映えるノボリがとってもきれいでした。最近是我が家の恒例になった箱根駅伝でのノボリ持ち…このイベントが済まない、なんだかお正月が来ないみたいな気持ちになり始めています。(戸塚 宮本真樹)

**箱根/宮ノ下** 初めて宮ノ下に参加しました。富士屋ホテル前広場に放送席とRANKINGボードが大きく掲げられランキングの変更があるたびに架け替えられました。選手到着30分位前に開会式があり箱根町長を始め関係者の挨拶がありました。観



御成門/プルデンシャル生命の社員とそのご家族の皆さん、東京タワーをバックに



田町/東京・埼玉・千葉のボランティアの皆さん



宮ノ下/千葉・埼玉・東京のボランティアの皆さん

光協会の方による選手の名前を呼ぶ練習も済ませ選手を待ちました。

のろしが上がり選手が来た時に名前を呼んで応援しました。このときのワクワクドキドキ感のはたまりませんでした。応援前に沿道の人に募金箱とギフト・ティッシュとノボリを持っての声掛けにお財布を開けて待っている方もいて嬉しくなりました。また骨髓バンクについての放送もしてくださり感謝の気持ちでいっぱいになりました。来年も宮ノ下に行くぞ!!

(千葉の会 柴谷みち子)

## 第17回患者サロン 「献血が輸血用製剤になるまでを見学しよう!」



今回は12月20日(火)午後1時30分から、日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター東京製造所の見学会でした。平日にもかかわらず、総勢20名もが参加して大盛況となりました。患者本人や家族、ボランティア

だけでなく、遠くは宮城県からの参加者もあり、医療従事者など幅広い立場の方々が参加する患者サロンとなりました。

オリエンテーションとして紹介映像を見た後に、検査部門で献血された血液の血液型や感染症検査についての説明があり、また、HLA検査についての説明もありました。その間にも検体を運んでくる方がいたり現場の臨場感も感じられました。製造部門では、さい帯血バンクについての説明、遠心分離機の実物や血液が白血球を除去するフィルターにかかる様子をガラス越しに見ることができました。最後

にまとめの映像を見て終了となりました。

見学中は撮影が全て認められ、懸命にシャッターを切り、日赤職員の方の説明をルーズリーフに熱心に書き留める姿が見られ、血液疾患の治療に欠かせない輸血や骨髄移植にとって重要なHLAについて、参加者のみなさんの関心の高さが伺えました。質問も次々に飛び出して、予定時間を過ぎても献血談議が尽きない熱気に満ちた見学会となりました。

参加者の方々から、「今までの誤解がこれで解けた、率直に勉強になった、いいイベントだった」などと好評をいただきました。最後までお付き合いいただいた日赤職員のみなさん、参加者のみなさん、本当にありがとうございました。(理事・野澤明男)

## 平成28年度厚生労働研究 「造血細胞移植研究合同公開シンポジウム」に参加して

1月8日(日)国立がん研究センターで厚労省研究班の公開シンポジウムが開催され、その概要の報告です。

### 1. 薬が効かない移植後ウイルス感染症に対する新たな免疫細胞療法の開発(東京医科歯科大学 森尾友宏先生)

この問題は現在、移植後の生存率を下けている課題である。その原因としては、1) ウイルスの再活性化、2) 薬が未承認、3) 薬耐性化などがある。そこで自らの免疫に着目し、ウイルス特異的T細胞治療を研究。この細胞は1回感染すると、2回目には一気に5万倍ぐらいに増え、駆除する性能がある。海外でも、HLA一致のT細胞を入れて好結果を得た報告もある。医科歯科大では7種のウイルスに対応するT細胞をHLA半一致ドナーの血液50ccから作成、薬の効かない耐性患者に臨床試験を計画している。(東京医科歯科大と東大医科研で)その後は先進医療一保険収載へと進めたい。将来は例えば、日赤などとストックを作り安価なものとした。

### 2. 非血縁者間末梢血幹細胞移植の現状と安全

(名古屋第1赤十字病院 宮村耕一先生)

2016年は末梢血幹細胞移植(PB)が倍増したこと。(8/8一致の制限を撤廃した)また、PBは慢性GVHDが骨髄(BM)より10%高い。これにはECP治療(リンパ球を外に出し光線を当てる)などを検討している。移植医の中には、慢性GVHDを懸念しPBを行わないという医師がいるのが実態。PBのコーディネート期間はBMより2~3週ほど短い120日位であった。骨髄バンクでは事前凍結は認めていないが、血縁では80%が事前凍結であり、移植中止による廃棄率は2%である。ドナーの安全性対策のために監視委員会などの設置が必要と考えている。

### 3. 骨髄バンクのコーディネート期間を短くするには

(国立がん研究センター中央病院 福田隆浩先生)

BMからの移植はさい帯血(CB)に比べ、成績(安全性)は高いが、コーディネート期間が長く問題である。米国の99日に比べて日本は

147日で、外国と比べ長い。2016年は11月までだが、PB:107件、BM:1040件、CB:1209件と逆転している。現在、短縮化に向け研究中である。若年層ドナー確保のためにソーシャル・マーケティング手法を用い骨髄バンクに提言したい。献血の経験者群にドナー登録者の比率が高いこと、40歳以下のドナーからの移植成績は40歳以上からに比べ良いことも判っている。医師のドナー選択の参考に、コーディネート履歴を記載するなどして、コーディネート進行率の高いドナー選定法を検討する。コーディネート開始人数を5人から10人にするなどの検討をしている。

(千葉の会・溝口理文)

次号に続く

## ボランティアあるある1コマ⑥ 杉本 ほんみ



### 第9回役員選考のための第2回選挙告示

第9回役員選考のための選挙につきまして、昨年11月10日付の第1回告示により立候補者を募ったところ、1月10日の届出締切日までに、候補者名簿のとおり立候補がありました。この結果に基づき、選挙管理委員会（梅田正造委員長）は、1月23日に以下の第2回告示を行いました。

1. 会長、副会長、監事の立候補者について  
会長1人、副会長3人、監事3人の選挙告示に対し、いずれも立候補者がありませんでした。

2. 地区推薦理事の立候補者について  
北海道・東海北陸・近畿・中四国の4地区における地区推薦理事は、各地区とも定数1人に対し同数の1人のみであり、役員選考規程第11条第2項の定めにより、投票は行わず立候補者は地区推薦理事の当選人として役員資格者となります。

関東甲信越地区の立候補者は、定数2人に対し1人であったため、役員選考規程第11条第2項の定めにより、投票は行わず立候補者は地区推薦理事の当選人として役員資格者となります。

推薦による理事の資格者は、5月28日(日)に開催予定の2017年度通常総会（於：東京）の議決により次期理事に選任されます。

3. 全国区推薦理事の立候補者について  
全国区推薦理事の立候補者は、定数3人に対し同数の3人であったため、役員選考規程第11条第2項の定めにより、投票は行わず立候補者は全国区推薦理事の当選人として役員資格者となります。

員資格者となります。

推薦による理事の資格者は、5月28日(日)に開催予定の2017年度通常総会（於：東京）の議決により次期理事に選任されます。

4. 公募理事の立候補者について  
公募理事は定数3人に対し、立候補者はありませんでした。

5. 以上1～4項の結果、第9回役員選挙では投票は行いません。

6. 役員選考委員会の設置について  
会長1人、副会長3人、監事3人のいずれについても立候補者がなく、また東北地区・九州地区の地区推薦理事（定数各1人）につ

いての立候補者がなく、関東甲信越地区の地区推薦理事（定数2人）は1人のみの立候補者でした。さらに公募理事（定数3人）についても立候補者がありませんでした。

こうした状況から、役員選任が正会員の選挙によって役員資格者を選出することが困難と認められ、役員選考規程第13条第1項の定めにより「役員選考委員会」の設置が必要と思われるので、その旨を理事会に報告しました。

7. 告示方法などについて  
第2回選挙告示 2017年1月23日（月）  
○ホームページ上での告示  
○正会員へ告示の文書送付  
○全国協議会ニュース2月号への掲載  
以上

#### 第9回役員選考のための「選挙立候補者一覧」

- 会長（定数1人）……立候補者なし
- 副会長（定数3人）……立候補者なし
- 監事（定数3人）……立候補者なし
- 公募理事（定数3人）……立候補者なし
- 地区推薦理事候補者（定数8人）

地区名	氏名	年齢	区分	所属団体名	推薦団体名
北海道(1)	内山 景一朗	66	現	北海道骨髄バンク推進協会	北海道、函館、苫小牧
関東甲信越(2)	村上 忠雄	70	現	神奈川骨髄移植を考える会	神奈川、東京
東海北陸(1)	田中 重勝	67	現	岐阜骨髄献血希望者を募る会	岐阜、あいち
近畿(1)	浅野 祐子	48	新	なら骨髄バンクの会	なら、姫路
中四国(1)	田中 雄一郎	58	現	骨髄バンクを支援する山口の会	山口、とくしま

#### ○全国区推薦理事候補者（定数3人）

氏名	年齢	区分	所属団体名	推薦団体名
北折 健次郎	57	元	あいち骨髄バンクを支援する会	あいち、三重、岐阜
若木 換	57	現	骨髄バンクを支援する東京の会	東京、埼玉、千葉
山村 詔一郎	60	現	なら骨髄バンクの会	なら、姫路、岐阜

※新…今回初めての立候補 現…現職理事 元……過去に理事もしくは運営委員

### 基金給付を受けた方からのメッセージ

#### 志村大輔基金 (分子標的薬支援)

病院で診察後、この「志村大輔基金」の事を知り、担当の先生に相談、すすめられて申請しました。

給付が決まり、これからまだまだ長い治療が続く事と快復の見込み等々心配な事が尽きないことに落ち込んでいたところへ、少し光が差し込んでくれたように気持ちになりました。

同じ病気で苦しんでいる方々も同じような気持ちだと思っています。医学の進歩をひたすら信じ、息子の快復を信じて過ごす毎日です。

本当に助かります。ありがとうございます。

(関西在住：患者の父)

### 賛助会員の皆さま紹介（敬称略）

#### 【一般賛助会員】

伊藤正樹、菜のはなこどもクリニック  
片寄雅彦 = 福島▽薄井紀子 = 東京▽田中文子 = 神奈川▽株式会社 大光、堤

俊彦 = 岐阜▽諫田淳也 = 京都▽興津美由紀 = 兵庫▽公立学校共済組合中国中央病院 = 広島▽中村忠義 = 鹿児島

#### 【サポート会員】

古澤忠夫、田中聡子 = 岐阜▽黒田ゆかり = 福岡▽中里哲郎 = 沖縄

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日～1月20日(敬称略)

●一般	現金 2,000円	杉山 みちえ 現金 5,000円
三井化学株式会社 チビットワンコイン	現金 200,000円	犬塚 亜希子 現金 5,000円
三井化学株式会社	現金 200,000円	犬塚 瑛悠 現金 5,000円
協和発酵キリン株式会社	現金 10,000円	築瀬 知雅子 現金 5,000円
株式会社エアネット	現金 384,000円	庄子 敏子 現金 10,000円
社会福祉各務原クローバークラブ	現金 60,000円	高橋 昌子 現金 10,000円
大垣プロバスクラブ有志	現金 3,606円	●募金箱
ガロのお客様	現金 3,188円	今内科消化器科医院
「ガロ」マイステージボックス	現金 21,940円	現金 10,000円
(君和田・松沢・山口・石山・鈴木・井口・大平・三崎・佐藤・中島・菅野・栗山)	現金 21,940円	イオン九州株式会社
全国協議会を愛する会一同	現金 5,000円	イオン都城店
	現金 5,000円	現金 7,305円
		株式会社 久美堂
		現金 11,501円
		横浜銀行町田支店
		現金 1,179円
		箱根駅伝 宮ノ下募金
		現金 67,867円
		●かざして募金
		現金 11,600円

### 活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会